

## 今日の説教のポイント<ルカによる福音書 24 章 13~35 節>

### ① なぜ一緒に歩かれているのに分からなかったのか？

復活されたイエス様が一緒に歩いて下さっているのに、弟子たちにはそれが分かりませんでした。外見が変わっていた？ ここで大事なことはそんなことではありません。今の私たちもまた、色んな心配事で「**目が遮られていて**」(16)、主が共に歩んで下さっているのが分からなくなることがあるのだ、と気づくことです。

### ② 打ち明けずに一緒に歩かれるなんて、イエス様も人が悪い？

それでも主は彼らと共に歩みながら語りかけ、問いかけられます。「イエス様も人が悪いな」と思うかもしれませんが、これもそんなことを考えるのではなく、神様は私たちのその時々の状態に合わせて語りかけ、問いかけて下さる方であることを思うべきでしょう。私たちは、私たちの思いを超えたことをなされる神様を突然受け入れることはできません。神様を受け入れられる状態に少しずつ変えて下さるお方なのです。旧約聖書の中では、敵に追い詰められて絶望的になった預言者エリヤに向かって下さった神様のなさり方を思います (列王記上 19 章)。

### ③ そこでイエス様がなされたことに注目！

イエス様は彼らに問いかけ、彼らが話し出します。それはイエス様のことをもう一度彼ら自身が振り返り、整理する機会となりました。目の前の問題に目を奪われて本当に見るべきものを見なくなることは私たちにも起こることです。弟子たちがもう一度イエス様のことを正しく考えられるようになった中で、いよいよ今度は主が語り出されたのです。

### ④ 聖書に耳を傾けるときに私たちの心は燃える！

主が弟子たちに語られたことは聖書が何を伝えようとしているかでした (26~27)。印象的なのは、イエス様だと気づいた弟子たちが言った言葉です、「**道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、私たちの心は燃えていたではないか**」(32)。福音書記者ルカが伝えようとしていることはここにあります。すなわち、時と場所を超えて、誰にも、いつも、共にいて下さる復活の主。それは、神様がそのために与えて下さった聖書に聞きながら生きる時に分かるようになっていくのだという事です。復活の主は、確かにここ聖書で出会えるのです！